

住民を愚弄！住民支援班は指定解除反対署名の受取り軽視

原子力災害現地対策本部で署名簿を手渡し

福島県庁記者クラブでの区長さん記者会見



■動画 <http://youtu.be/wFFKrDOJLlc> 「被災者に寄り添う」が「不都合になると逃げる」国

11月4日午前10時、行政区長さんをはじめとする私たち特定避難勧奨地域住民約20名が、原子力災害現地対策本部を訪ね、地域1,210名の「不当な特定避難勧奨地点の解除に反対する署名」を提出しようとした。しかし、責任者が不在だとして入室さえ拒否されました。押し問答の末ようやく中に入れましたが、「責任ある者が南相馬市へ清掃に…」と無責任な回答でした。実は10月27日に、行政区長さんたちが訪問して署名簿を手渡すと伝えたところ、住民支援班長は忙しいので郵送受取りとの回答でした。住民支援班は、11月1日に後出しジャンケンのように4日の同時刻、南相馬市の住民宅を訪問すると伝えており、故意に不在の既成事実を示したのです。

■特定避難勧奨地点の指定世帯以外を排除した、国の放射線計測と住民説明会は分断工作

地域の皆さんすべてがご承知のように特定避難勧奨地点の世帯だけが危険なのではありません。5月に全世帯での国の放射線計測を要求したところ、税金の無駄遣いだと一蹴されました。せめて説明会だけでも参加させてほしいとの要求も拒否されました。そこで10月10日、「南相馬・避難勧奨地域の会」は、「南相馬・被ばく一揆」と称して政府交渉に臨み現在に至っています。

■国は勧奨地点の指定世帯だけを清掃し、他の世帯は南相馬市が清掃するといっていますが…

私たちは、地域全体の清掃(効果は期待薄)を望んでいます。みんなで清掃を依頼してください。

【放射線量不安に関する相談窓口】危機管理課内、電話番号0244-24-5246(平日8:30~18:00)

■国による「リスコミ⇔スリコミ」と「心の清掃」には、絶対にダメされないでください

国や南相馬市は、現地の放射能汚染の実態がわからなかったばかりか、法的なことも理解しておらず、専門家の名前さえ知らない、それで安全だといっていることが今になってわかりました。

■原子力災害対策本部長(安倍総理)や現地対策本部長(高木副大臣)にも渡したDVDの上映会

11月21日(金)午後6時~7時、午後7時~8時の2回 於:市立図書館マルチメディアホール
DVDの無料上映:「チェルノブイリ28年目の子どもたち-低線量長期被曝の現場から-」など

DVD 無料上映会のご案内

「チェルノブイリ 28 年目の子どもたち」

低線量長期被曝の現場から

OurPlanet-TV (2014 年 43 分)
www.ourplanet-tv.org

11 月 21 日(金曜日)

1 回目の上映 午後 6 時～7 時

2 回目の上映 午後 7 時～8 時

南相馬市立中央図書館となりの

情報交流センター 2 階

マルチメディアホールで上映

問い合わせ電話番号：0244-23-7796

主催：南相馬・避難勧奨地域の会

ひまわりプロジェクト南相馬

電話：090-3756-8435 (おざわ)



チェルノブイリ原発事故から28年経った現在のウクライナを取材した「チェルノブイリ 28 年目の子どもたち」。チェルノブイリ原子力発電所から 140km 離れたジトーミル州南部の町コロステン。「チェルノブイリ法」が制定された 1991 年当時の住民の被ばく線量は年間 0.5 から 5mSv。土壌汚染は 1 m²あたり 3 万 7000~55 万 5000 ベクレルで、移住権利ゾーンと放射能管理ゾーンが混在している。2011 年の「ウクライナ政府報告書: Safety for the Future」によると、事故後 25 年間の積算線量は平均 15 から 25mSv。取材をしたコロステン第 12 学校の校庭は毎時 0.1 μSv。1 年生から 11 年生まで計 645 人が通うが、特に問題がなく普通に体育の授業を受けられる子どもは 157 人 (24%) と 4 分の 1 に満たない。慢性疾患などがある子どもたちは、目がおかしい、喘息、胃潰瘍、肝臓炎、甲状腺炎、心臓疾患、脊椎側湾症、先天性の心臓疾患などにかかっているという。また、2 年生から 11 年生までのすべてのクラスで授業時間が 5 分短縮され 40 分、1 年生はさらに 5 分短く 35 分となっている。「チェルノブイリ 28 年目の子どもたち」は、学校や医療機関でどのように健康診断を行い、保養につなげているのか？日本にとって、参考になる取組みや日々の暮らし、行政や専門家の声をまとめている。子どもたちを守るために力を尽くすウクライナから、私たちは何を学べるのか。